池田亀鑑生誕の地から贈る　　平成30年度とっとりの文化芸術探訪事業

第七回　池田亀鑑賞授賞式・記念講演会

2018年6月30日（土）

午後1時30分～4時30分

日南町総合文化センター・多目的ホール

参加費　500円

いづれの御時にか、女御、更衣あまたさぶらひたまひける中に、いとやむごとなき際にはあらぬが、すぐれて時めきたまふありけり

第一部　池田亀鑑賞授賞式および受賞者記念講演会

松本 大　氏
まつもと　おおき

演題「時代を超える『源氏物語』の魅力」

第七回池田亀鑑賞の受賞作品は
松本大・著『源氏物語古注釈書の研究』
（和泉書院・刊）に決定しました。

受賞者プロフィール
■1983 年 11 月　埼玉県に生まれる
■2006 年 3 月　東京学芸大学教育学部卒業
■2015 年 3 月　大阪大学大学院文学研究科博士後期課程修了　学位　博士（文学）
■現職　奈良大学文学部講師
論文「『河海抄』巻九論—諸本系統の検討と注記増補の特徴—」（第 7 回中古文学会賞）

第二部　特別講演

演題「新指定 重要文化財「池田本」の価値
—池田亀鑑のその後に向けて—」

須藤 圭 氏
筑紫女学園大学・准教授

第三部　重要文化財　池田本『源氏物語』「桐壺」巻を読み、池田亀鑑を追体験する

講師：伊藤鉄也　氏
■池田亀鑑賞選考委員長・ＮＰＯ法人〈源氏物語電子資料館〉代表理事
大阪観光大学・教授

池田本「桐壺」巻頭部分１丁

■主催　池田亀鑑文学碑を守る会　■ 事務局・日南町図書館 〒689-5212 鳥取県日野郡日南町霞 785　TEL: 0859-77-1112
■協賛　石見まちづくり協議会　■　協力・広報　株式会社　新典社
■後援　日南町・日南町教育委員会・NPO 法人〈源氏物語電子資料館〉

池田亀鑑賞とは

一般公募。あるいは、全国の作家、評論家、出版社、新聞社など推薦人から推薦を受けたもので、平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日刊行奥付および発表分の中から、『源氏物語』を中心とする平安文学に関する研究論文や資料整理及び資料紹介に対し、学界に寄与したと評価されるもの 1 作品が、同賞選考委員会により選ばれます。

【選考委員】伊井春樹(阪急文化財団・逸翁美術館館長)・池田研二(池田亀鑑子息・元東海大学教授)・伊藤鉄也(元国文学研究資料館教授・大阪観光大学教授)・小川陽子(岐阜大学教育学部准教授)・妹尾 好信(広島大学教授)・原豊二(ノートルダム清心女子大学准教授)

(50 音順・敬称略)

設立の経緯と趣旨

『学才にあらず　閥派にあらず たゞ至誠にあり』の碑文が刻まれた池田亀鑑文学碑は、池田亀鑑生誕の地（鳥取県日野郡日南町神戸上）に近い、旧日南町立石見東小学校にあります。 この文学碑は、「池田亀鑑先生文学碑建立発起人会」により、昭和 43 年（1968 年）12 月 19 日に建立されました。

平成 22 年（2010 年）3 月 13 日に日南町で開催された講演会「もっと知りたい池田亀鑑と『源氏物語』」が契機となり、「池田亀鑑文学碑を守る会」が、日南町と協力して平成 23 年（2011 年）に「池田亀鑑賞」の設立を実現しました。

「池田亀鑑賞」は、文学の研究基盤を形成する上で、顕著な功績のあった研究に対して贈るものです。

その地道な努力を顕彰し、さらなる成果の進展を期待する意味を込め、伝統ある日本文学の継承・発展と文化の向上に資することを目的としています。

これまでの受賞者と作品

第一回 杉田昌彦『宣長の源氏学』(2012.3.10)
第二回 岡嶌偉久子『源氏物語古注集成・林逸抄』 (2013.6.22)
第三回 須藤　圭『狭衣物語　受容の研究』(2014.6.28)
第四回 滝川幸司『菅原道真論』(2015.6.27)
第五回 畠山大二郎『平安朝の文学と装束』(2016.10.1)
第六回 本橋裕美『斎宮の文学史』(2017.6.24)

※(　)内は、授賞式の日時

池田亀鑑先生略歴
（碑文より）

池田亀鑑先生は、明治二十九年十二月九日厳父宏文慈母とらの子として神戸上に生まれる。幾多の困苦と欠乏に耐え、よく努力し鳥取師範を経て東京高等師範に学び東京帝国大学文学部国文科を卒業する。女子学習院、第一高等学校、二松学舎、慶応義塾、早稲田、帝国女子専門学校、東洋等各大学の講師又は助教授。大正大学、東京大学の教授等を歴任し、昭和二十三年には文学博士号を授与される。中古古典文学、特に源氏物語の研究においては斯界の第一人者と称せられ、爾後の指針とされた。著書は源氏物語大成全八巻他多数。毎日学術奨励賞、朝日文化賞等を受賞する。昭和三十一年十二月十九日病を得て東京に没す。行年六十才。その悲報に衝撃を受けた厳父宏文氏も同日逝去される。先生のふるさと神戸上への想いは随筆集「花を折る」等で熱く述べられている。尚文学碑は、昭和四十三年十二月九日建立除幕された。